

事前ワークシートまとめ一覧

第4回長房中学校区地域づくり推進会議では、その他のアクションプランとして【多世代間のつながりづくり】について検討しました。

その中で、これまで皆さんが地域で取り組んできた既存の活動をベースに、下記の取組が地域全体で実施していきたい取組の候補として挙げられました。

- 地域食堂
- 地域住民の関心が高い教室・講座(例:スマホ教室、防災教室など)
- あいさつ運動の強化
- 新しく楽しい取組(例:フリーマーケット、花火大会など)
- 既存の取組にちょい足し(例:ハロウィン、高齢者の居場所で子どもの預かりを行うなど)

取組内容	既存取組の活用アイデア
地域食堂(みんなの、多世代交流)	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂・無料学習塾の成功事例を参照 (人材)セミプロ、ボランティアを募集して立ち上げ。会場:長房ふれあい館 * アルプスと共同で、コピテラス、東団地集会場を利用して立ち上げる。(人材)東団地のサロンの人に対応してもらう * 食品ロス地域を皆様に還元したいと、アルプスの営業部長がひまわりサロンに来て話し合いを行いました。サロンの人材を活用し、コピオ(パーゼル)の厨房を活用(まだ模索の段階です)
地域住民の関心が高い教室・講座	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホ教室: 高齢者向け企画、会場:長房ふれあい館。講師は大学生が望ましい ・防災教室: * 防災力向上の意識づけ、戸建て、集合住宅などの地域性を重視した勉強会が望ましい。減災、避難、備蓄グッズ、短期・長期を想定した避難生活についてなど。実施には、地元の町会・自治会との事前根回しが必要か。 * 現在ある西団地の2つの連自治会、長房中学校が共同で行っている防災訓練を4団地で行うようにする
あいさつ運動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとのふれあいを大切と考え、定期的に通学路に大人が立って積極的に子どもたちに声かけを行う(月に数回でも可) * 長房中では登校時あいさつ運動を実施。船田小、長房小では、登校する児童へのあいさつ運動を地域高齢者の皆さんとPTA父母で行っている。 * 地域のボランティアを増やす * 学校安全ボランティアで高齢者が毎日出ておりますが、児童の父母も無理にとは言いませんが、出られる時だけ自分の子どもがどのように通学しているか見守ってほしいです * 子ども会でのあいさつ励行を大人がしっかり行う * 各行事での声かけ運動(夏祭り、どんど焼き、花見 etc)

<p>新しく楽しい取組</p>	<p>・フリーマーケット： * 単独開催も魅力があるが、動きがつかめるまでは他のイベントと同時開催にして経験値を深め、将来は「長房フリーマーケット」の開催をめざす。 * コピオの正面にある駐車場を借りて実施する * コピテラスでやれば多世代の交流になるのでは * 長房の空き地を利用し、定期的に行う。年齢が偏る可能性があるので、年齢や性別をわける・もしくは枠を設けると面白いかもしれない。 * 自家栽培野菜や手作り品アドも OK で、小学生、学生などの枠を設けて、若いうちから商売やビジネスの経験をする機会を提供するのも楽しいかも。</p> <p>・花火大会： 納涼祭などのお祭りにあわせて開催することから始めたらいいのでは。町会・自治会に根回しが必要かも。 * コピオ駐車場、子どもの遊び場を利用して花火大会もできる</p>
<p>既存の取組にちょい足し</p>	<p>・ハロウィン： ぜひとも「オールながふさハロウィン」を名物にする意気込みで企画・仕掛け作りをしたい。企画段階では中高大学生も含め、実行委員会を立ち上げて来年に備えたい。 * 東団地と長房包括支援センターの助成を受けて実施しているハロウィンを長房の商業施設に広げて実施できる。今年は10/29(土) * 多世代交流：東団地が発祥ですが、長房団地全体のイベントにしたらよいと思います</p>
<p>高齢者の居場所</p>	<p>・東団地では毎週土日、集いたい人が集い、お茶を飲みながら時間を過ごしております。コロナ予防のために中止をしております。大変好評でした。</p> <p>・体操教室： 町内会の老人が集まって指導者からの教えを受ける。老人の憩いの場となる。</p>
<p>(担い手づくり)</p>	<p>・地域の催事も含め種々の活動の多くが、特定のメンバーにより提起され『担い手』も限定的になっているのが実情だと思います。その為にほぼルーティン化された手法と新味のない内容で、広範な人々に参画意識を醸成出来ず『場所や機会を提供する人々』と『お客様として参加する人々』に分化してしまいがちです。</p> <p>・これを解消する手立てとしては、例えば催事については準備段階から各種のワークショップ等を行ないながら興味を持ってもらい、その後に「実行委員会」等のメンバーとして誘導するなどの手法を通じて新たな担い手づくりをする事が、全ての課題を活性化し地域活動を有効に展開する起点になるのではと考えます</p>